

アウェイクによる森林保全活動支援

森の恵みに感謝の心を込めて

昨今、地球の陸地面積の約3割を占めている森林が失われつつあります。世界中で森林伐採が進む現在、1時間に東京ドーム178個分に相当する森林面積が失われているといわれています。一方日本では、林業の衰退とともに間伐などの手入れがされず、放置されている森林が多いという問題があります。

ヒノキ科の常緑樹由来の天然香気成分「サイプレスオイル」という森林の恵みを活かした商品展開をしている「アウェイク」は、森林の恵みに対する感謝の気持ちを込め、森林保全団体「more trees (モア・トゥリーズ)」の活動への協力を始めました。肌が乾燥しやすく、フェイスやボディケアの需要が高まる冬から春先までをキャンペーン期間とし、アウェイク商品1本を購入ごとに、約1/2坪(約1.65m²)の森を再生する費用に相当する額を、「more trees」へ寄付し、森林整備や保護活動につなげました。

国内外の森をもう一度甦らせる

国内外の森林整備や森林保全活動などを行っている「more trees」では、国内8カ所とフィリピンにおいて、森林再生プロジェクトを進めています。フィリピンでは植林を、国内では放置された森に適切な間伐を行い、林

内に太陽の光をとおして森の健全化を図るとともに、間伐材の有効活用やカーボンオフセット*を行うことで、森づくりを持続するサイクルを作りだしています。

このキャンペーンをとおして、「more trees」の進める森林整備について、広く紹介することができました。「アウェイク」では、引き続きこのようなキャンペーンをとおして、森林再生活動にかかわっていきたくと考えています。

※カーボンオフセットとは、経済活動や生活などをとおして「ある場所」で排出された二酸化炭素などの温室効果ガスを、植林・森林保護・クリーンエネルギー事業などによって「他の場所」で直接的、間接的に吸収しようとする考え方や活動の総称



適正な間伐をすることで森林内に光を当て、下草を生やし、健全な森を保つことができる。

VOICE

森と都市をつなぐことを目指して

一般社団法人 more trees
和井 健太郎様



「more trees」は、「もっと木を」というコンセプトのもと、音楽家である坂本龍一の呼びかけによって2007年に設立された森林保全団体です。私たちは設立以来、国内外10カ所の森づくりプロジェクトを立ち上げ、地域とともに森づくりを進めています。また、2011年3月11日の東日本大震災の復興支援として、被災地域の木材を使った木造仮設住宅の建設を支援する「LIFE311」という取り組みを行っています。私たちは森と都市をつなぐことを目指しています。森づくりにより生まれる森の恵みを活用した商品やカーボンオフセットサービスなどを提供し、その対価を森づくりに還元することで、森と都市の間に循環を生み出します。皆さんはこれらの商品などを活用することで森づくりに参加でき、都市と森の間に持続的な関係が築かれることとなります。私たちの進める活動は継続することが大切です。ご賛同、ご支援いただける方々にはぜひ長期的なご支援をいただければ幸いです。



環境に配慮した商品づくり

コーセーでは「人はもちろん、地球環境にもやさしい化粧品づくり」に力を注いでいます。原料や材料の選択にも、コーセー独自の厳しい基準を設けるだけでなく、使い終わった後の廃棄量を少なくすることなども考慮して、研究開発を行っています。

廃棄物削減に貢献するために

肌にも自然にもやさしい原料を24品目で採用

洗顔料やシャンプーなどの商品で、自然界の微生物によって分解されやすい原料を積極的に使用。2010年度は「スティーブン ノルコレクション」などのブランドで24品目が追加されました。



再利用可能な付け替えボトルを採用

スタンディングパウチや詰め替えボトルの商品を積極的に発売。「インフィニティ」などのブランドでは、ポンプを再利用できる付け替えボトルを採用しました。



能書を外箱の裏面などに印刷し、紙の使用量を削減

化粧品の使い方などの能書を箱の外側もしくは内側に直接印刷し、別紙による能書の添付をしない商品で、2010年度は153品目の商品で採用しました。



レフィル容器で原材料の使用量を低減

容器の原材料の使用量を低減するため、樹脂使用量が従来の半分で同じ強度を持つファンデーションのレフィル容器を開発しました。



限りある資源を守るために

サトウキビのカスから生まれた紙を積極採用

森林保護のために、バガス*1やケナフ**2といった木材を使わない紙を積極的に採用しています。2009年度は35品目に、2010年度は「ジルスチュアート」を含む44品目で採用しました。



オーガニック原料の使用

環境に配慮した栽培方法によるオーガニック原料の活用にも力を入れています。「ネイチャー アンド コー」や「サロンスタイル」などでは、オーガニックハーブから抽出したエキスを配合しています。



30品目の商品で再生PET樹脂を使用

化粧品の容器や製造段階で、PET(ポリエチレンテレフタレート)やPP(ポリプロピレン)など再生樹脂の採用に取り組んでいます。2010年度は再生PET樹脂を30品目の商品で使用しました。



433品目のパッケージで再生紙を利用

商品の1個箱や能書、パンフレット、段ボールなどでは、基本的に再生紙を使用しています。2010年度は再生紙をパッケージに採用した新商品が、「雪肌精」など433品目に上りました。



*1 サトウキビの搾りカスを原料とした紙

**2 1年草で成長が早く、CO₂を一般樹木の4倍以上を吸収。ケナフの茎からは木材パルプに似た良質な紙がとれる